

令和6年度第1回長野市健康増進・食育推進審議会 会議録

- 開催日時 令和6年9月3日(火) 午後1時30分から午後3時まで
- 開催場所 長野市ものづくり支援センター5階 産学行交流室
- 出席者 板倉委員、伊藤委員、小口委員、北沢(広)委員、北沢(岬)委員、草間委員、小林(博)委員、小林(ひ)委員、佐藤委員、諏訪委員、関口委員、高山委員、轟委員、野池委員、原委員、古越委員
- 欠席者 有金委員、風間委員、釜田委員
- 事務局出席者 宮島保健所長、佐藤健康課長ほか
- 傍聴者 なし
- 報道機関 なし

発言者	内容
事務局	1 開会
事務局	2 委嘱書交付
宮島保健所長	3 保健所長あいさつ
事務局	4 委員紹介等
事務局	5 会長選任議事 会長の選任 互選により 高山会長 会長代理の指名 会長指名により 草間委員
事務局	6 議事 (1) 第四次 長野市健康増進・食育推進計画(ながの健やかプラン21(第二次))について 資料に基づき(1)について説明 《質疑応答要旨》
委員	計画冊子の30ページや31ページのグラフの中に「同規模」とあるが具体的にはどのようなものを指しているのか。
事務局	長野市と同規模市を指している。
委員	子どものむし歯は減っているが、減ったからいいということではなく、一人で多数のむし歯をもつ子がいたり、口腔機能が発達していない子が増えている。ブクブクうがいができない子がいる。口腔機能の育成については乳幼児健診等で取り組んでいくとのことだったので、歯科医師会としても協力してやっていきたい。
事務局	子どものむし歯は全体では減ってきたが、一人で多数のむし歯をもつ子がみられる。その場合は、歯みがきや甘い物の摂取以外の要因も関係していることが多いため、歯科医師会の先生方や保健師、栄養士など他職種と連携しながらどういっ

発言者	内容
	た支援ができるか考えていきたい。
委員	若年女性のやせが増えているのが気になる。
事務局	若年世代への関りは難しい。本課の関わりは3歳児健診までであり、それ以降から中学校までは他課での関わりとなる。高校以降は市として介入が難しい年代となっている。この審議会を通して大学生等の若い世代にアプローチできるような取組を今後検討できればと思う。
委員	食塩の摂取量の多さや働き盛り世代へのアプローチは課題である。そんな中、長野市はスマートミールも推進していると聞いている。
事務局	「シン・しょうが焼き弁当」を長野県A・コープと共同開発した。食塩相当量は1.7g JSH減塩食品を使用している。
会長	勉強して初めて知ることが多いが、知ってもなかなか生活に取り入れられない。小さいうちの食育が必要かと思う。中学生の息子は給食を食べる時間が限られ、急いで食べるというようなことを聞いている。
委員	園生活では、小さいうちに食べることで、体を動かして体を丈夫にするなど生きる力を育てられるような活動も行っている。 園の畑で野菜などを栽培し、収穫物を調理して給食で食べるなどの体験は、地産地消につながっていると思う。 生まれてから年を取るまで健康でいられる土台作りの時期である。
委員	市内の子は歩行数が減少し、身体が固い、腰が痛いなどについてはスマホやゲームの影響しているように思われる。健康推進の意味で、子どもたちの小さいうちにすり込むなど重視していく必要がある。「子どもの健康」という観点を大事にしてほしい。
事務局	実際の歩数調査は難しい。スポーツ庁のデータ、全国体力・運動能力、運動習慣等調査から指標を設定している。 大人も子どももスクリーンタイムが増加しており、座りすぎの時間を減らすことが大事と考えている。
委員	コロナ禍前は親子料理教室や子どもプラザでのおやつ作りなどの食育活動をしていたが、コロナ禍以降、いろいろな制限が解除されてきたが、料理教室などの食育活動が復活していない。どこに話をしていったらいいのか、わからない。食育の必要性など、みんなに浸透させていくにはどうしたらいいか。
事務局	どう習慣づけていくか。集団に対して周知啓発しても個々には伝わりにくい。保健所には、各担当があり、各地区の保健師が見守っている。

発言者	内容
委員	<p>乳幼児健診等においては、母親への減塩指導など、きめ細やかなアドバイスもやっている。</p> <p>数字の多さ、課題の多さに驚いた。</p> <p>畑は食卓につながっているが活動の基本にある。市の農業政策課と協力し、小学校2年生が育てた大豆を使って味噌づくりをする支援をしている。</p> <p>このような体験の中から何か一つでも家庭に持ち帰ってほしいと思っている。そして、子どもから親に教えることも必要ではないかと思う。</p>
委員	<p>先ほど、学校における給食の時間の話があった 給食には30分ほどとっているが、ほとんどの子は20分程度で食べる</p> <p>運動については、社会体育や地域のスポーツ団体と協力しながら、楽しんでできる活動が増えていけばいいと思う。</p> <p>体験活動については、総合学習の中でできる学校もあれば、授業数がいっぱいできない学校もある。</p>
会長	<p>部活動の地域移行についてはネガティブにとらえていたが、地域とのつながりが増えるという良いこともあるんですね。</p>
委員	<p>計画では市民の健康格差、地域格差の縮小を謳っており、計画冊子の10ページに市内32地区の国保特定健診受診率が出ている。地区により受診率が大きく違うことが分かるが、その主な理由などは分析しているのか</p>
事務局	<p>地区担当保健師がおり、地区の実情を把握している。例えば、受診率が一番高い鬼無里地区は、集団健診を実施しており、地区のコミュニティーも高い。一番低い大岡地区は診療所が遠い・通院しているから健診を受ける必要がないと思っている人もいると思う。地区担当保健師は受診勧奨を行いながら地道に受診率向上に取り組んでいるところである。</p>
事務局	4 その他 なし
事務局	5 閉会